

令和5年度 学校経営報告 東京都立日比谷高等学校 校長 梅原 章司

自己評価の基準：【A】十分達成できた【B】おおむね達成できた  
【C】あまり達成できなかった【D】まったく達成できなかった

1 教育活動への取組	自己評価
<p>【学習指導】</p> <p>【目標】「質の高い授業の創造」と「教科マネジメント」の充実を図る。</p> <p>【方策】</p> <p>① 生徒間の対話を通して考えさせ、表現させる授業をすべての科目において次の5段階を意識した授業を実践する。</p> <p>ア 生徒に考えさせる イ 考えたことを表現させる ウ 他者の考えを聞く エ 自己の思考を深める オ 新たな気づきを得る</p> <p>② 集団で学び、新たな気づきや発見のある授業を通して、自ら学びに向かい深く掘り下げることのできる生徒を育てる。</p> <p>③ 当該学年の教科チームとして生徒の成績推移や実態を把握し、それを踏まえた日常の補習や長期休業日中の講習を実施する。</p> <p>④ 教務部の適切な進行管理のもとに、生徒による授業評価結果を教科として分析し、学校として生徒へ文書でフィードバックする。生徒と教員とでよりよい授業づくりを目指す。</p> <p>⑤ 教務部と3学年・教科主任会・進路指導部が連携して、3学年特別時間割の講座設定について共通理解を図り、組織的・意図的に実施する。</p> <p>⑥ 国公立二次試験に対応できる教育課程を継続実施する。</p> <p>⑦ 「課題・補習・面談」を通して基本的な学力の維持・向上を図る。</p> <p>⑧ 前年度実施した経験を踏まえ、理数探究基礎を改善し、より効果的に実施する。</p> <p>⑨ 2年新科目「理数探究」を充実した内容で実施する。</p> <p>⑩ 3観点に基づくルーブリック評価について実施する。</p> <p>⑪ すべての教科において、一人1台端末等ICT機器の効果的活用を図る。</p>	<p>【学習指導】</p> <p>質の高い授業を創造するために、</p> <p>ア 教員個々及び教科としての研究（通年） イ 管理職による授業観察（年2回）と面談（年3回）をそれぞれ実施した。また、全科目において定期考査問題の共通化を継続した。【B】</p> <p>① 授業における「生徒間の対話」の場面を通して考えさせる取組はほぼすべての授業で実施した。授業に対する生徒の肯定割合は前年度からやや減少し80%であった。</p> <p>② 授業を契機とし、自主的な学びに取り組む生徒が増えている。学びを継続させ、さらに教科の枠を超えた知識の統合につなげるよう指導していくことが重要である。</p> <p>③ 教科としては教材の共有化や担当教員間の情報交換を進め、生徒個別の成績状況等はデータベースや拡大進路部会において教員全体で共有した。また、年2回の進学指導検討会において学年全体の生徒情報を共有し、それに基づく補習・講習等を各教科で工夫し実施した。</p> <p>④ 教科として授業評価結果の分析コメントを作成し、評価結果のデータとともに全校配布した。</p> <p>⑤ 3学年特別時間割については、大学別の講座を設定するなど、生徒本位の講座設定に努めた。</p> <p>⑥ 難関国立4大学及び国公立医学部医学科二次試験の受験者は263名、83%であった。</p> <p>⑦ 課題の提出について繰り返し指導し、定期考査・小テストの実施後に基準に到達しない生徒に対し個別補習を実施した。さらに、担任による年4回の面談で、学習への意識を高める働きかけを行った。</p> <p>⑧ 全教員で理数探究基礎に取り組み、探究力の基礎を構築させるよう働きかけを行った。</p> <p>⑨ 1年次の探究活動をより深化させ、2月の成果報告会につなげた。</p> <p>⑩ 各教科で適正に評価を実施した。</p> <p>⑪ 教科の特性により、様々な活用方法が実践されている。今後は校内研修会を通じた実践事例を研究し、さらなる活用法を探っていく。</p>

**【生活指導・健康づくり】**

**【目標】** 「生徒に寄り添い、生徒と向き合う指導」から自律した生徒を育成する。

**【方策】**

- ① 進学校としてけじめ・メリハリのある授業規律・生活規律を確立するため、全教職員で生活指導にあたる。
- ② 全校集会・学年集会やホームルームを通して、望ましい学校生活について生徒に考えさせる指導をするとともに、家庭及びPTAとの連携を図る。
- ③ スクールカウンセラーを活用し、生徒の心のケアなど教育相談機能の充実を図る。
- ④ 年間を通して、生活指導部、保健部、学年と経営企画室とが連携したタイムリーかつ確実な環境整備を行う。

**【進路指導】**

**【目標】** 「現役での生徒の進路希望の実現」を果たす。

**【方策】**

- ① 学年集会、個人面談等を活用し、最後まであきらめさせない指導を継続する。
- ② 学習支援クラウドやデータベース等により生徒情報を共有し、担任・教科担任・部活動顧問等があらゆる場面で生徒を励ます指導を行う。
- ③ 進路指導部と学年とが連携し、生徒の第一志望実現へ向けた進学指導対策を立て、現役合格を達成する。
- ④ 年2回の進学指導検討会後に、進路指導部・5教科主任会を開催し、具体的な学習指導対策を検討・実施する。
- ⑤ 実力テストの実施にあたって、作問レベルや実施後の状況について全教職員で共有する。
- ⑥ 3年生の成績データに基づいたケース会議を年2回開催し、個別指導や出願指導等で活用する。
- ⑦ 医学部医学科の進路希望実現へ向けた対応を継続する。
- ⑧ 海外大学進学希望者への説明会等を一層充実させ、実施する。

**【生活指導・健康づくり】**

あいさつ、時間管理、身だしなみ、授業規律などについて個々の教員からの声かけや投げかけなどを実施した。また、学年・全校集会を活用して自律的な生活の確立へ向けた働きかけを行った。生徒自身の持ち物管理の大切さ、SNSの適切な使用については、継続指導していく必要がある。**【B】**

- ① チャイムと同時の授業開始などは問題なく実施できている。教員が輪番で下校指導を行い、時間を守る意識を向上させた。今後も教室の整理整頓の徹底など、より望ましい学習姿勢を全校で確立していく。
- ② 制服の改訂について、生徒会との話し合いを行う中で、生徒規律を自らのこととしてとらえる指導に努めた。  
また、年間4回の避難訓練を実施し、1年生は千代田区と連携した防災訓練を実施し地域と連携できた。
- ③ スクールカウンセラーによる全員面接を実施し、生徒の心のケアなど、教育相談機能を充実させた。
- ④ 生徒保健委員会と連携して、消毒液の適切な配置換えを実施した。

**【進路指導】**

現役進学率は68.8%であった。(前年度61%)高い進路希望を実現させていくために、今年度の受験結果の検証を進めて、次年度以降の指導へ生かしていく。今年度も生徒の成績データベースを基に、志望大学別のケース会議を実施し、教員間で指導上の目線合わせを行った。

第一志望を変えず、努力を重ねた結果、難関国公立大学の現役合格者数は、昨年度を上回った。**【A】**

- ① 学年のみならず、学校全体であらゆる場面を通して、第一志望をあきらめさせない指導を貫いた。
- ② データベース化した既卒生及び在校生の情報を全教員で共有し、それぞれの立場で励ましの指導を行った。学習支援クラウドを活用して、学習や特別活動の振り返り、資格取得等の記録を保存した。
- ③ 学年集会、進路講演会、出願検討会など、進路指導部と学年とが連携し、情報を共有して指導にあたることができた。
- ④ 適切に実施できた。
- ⑤ 実力テストの作問レベル、予想平均点や実際の得点率を問題別に細かく検証し、教科会にて全員で共有して授業にフィードバックさせた。
- ⑥ 11月及び1月にケース会議を実施し、出願指

<p><b>【特別活動】</b>  <b>【目標】</b> 「文武両道」を奨励し、生徒の帰属意識を高める。  <b>【方策】</b>  ① 特別活動全般について、コロナ禍以前と同程度の実施を目指す。  ② 新入生への部活動参加を奨励する。  ③ 体育大会・合唱祭・星陵祭を通して、全校生徒の成就感や達成感を高める。  ④ 生徒会活動・委員会活動を支援し、生徒自身の自主的・自律的な活動を充実させる。  ⑤ 海外研修を可能な限りコロナ禍以前に近い形で実施する。  ⑥ オンラインを活用した海外との交流を継続実施できる体制を整える。  ⑦ 全生徒がグローバル事業に関わり、その成果の還元を受けられる取り組みとする。</p> <p><b>【募集・広報活動】</b>  <b>【目標】</b> 「本校を第一志望とする生徒」の入学。  <b>【方策】</b>  ① 学校説明会・学校見学会、授業公開等、本校の教育活動を公開する機会を充実させる。  ② 生徒の活躍（学習、学校行事、部活動など）をタイムリーに学校ウェブサイトへ掲載する。  ③ 各分掌が所管するウェブサイトの内容をより自主的に更新・情報発信していく。  ④ 小学生とその保護者を対象とした学校説明会をより一層充実させる。  ⑤ 海外及び都外在住者向けの相談窓口を継続実施する。</p> <p><b>【学校経営・組織体制】</b>  <b>【目標】</b> 「組織的な学校運営体制」を再構築する。  <b>【方策】</b></p>	<p>導に活用した。</p> <p>⑦ 進路指導部の主導の下、校内及び校外の人材を活用して、ガイダンスや面接指導を組織的に実施した。</p> <p>⑧ 都で実施した説明会を進路指導部内で情報共有した。本校の進路指導にどのように組み込むかが今後の課題である。</p> <p><b>【特別活動】</b>  文武両道の伝統は確実に継承され、生徒の入学満足度は88%と、前年度とほぼ同様であった。<b>【B】</b>  ① 感染防止に引き続き注意しつつ、通常開催の形式で実施できた。  ② 予定通り実施できた。  ③ 実行委員会の生徒を中心に、すべての行事について実施できた。  ④ 生徒会活動や委員会活動は、顧問の支援の下で継続させることができた。生徒会・委員会による通信の発行や組織改編へ向けた検討など生徒たちの自主的・自律的活動が継続した。  ⑤ SSH 海外派遣での研修は中止とし、国内研修へと切り替え実施した。Ge-NET20 ではボストン・ニューヨーク研修を実施した。  ⑥ 韓国姉妹校交流を実施した。  ⑦ SSH 成果報告会等、広く生徒や保護者に向けた成果発表を行い、生徒に還元できた。</p> <p><b>【募集・広報活動】</b>  今年度は男女枠撤廃のため、男女の直接的な比較は行えない。推薦に基づく選抜の応募倍率は2.6倍（前年度3.3倍）、学力検査に基づく選抜の応募倍率は1.8倍（前年度2.3倍）となった。学力検査においては想定数を超えた辞退者が出て、二次募集を実施した。<b>【B】</b>  ① 夏の学校見学会を5日間実施、海外在住生徒対象のオンライン懇談会実施、学校説明会を3回実施し、総参加者数4500人超。  ② 生徒は多種多様な活躍をした。情報発信の頻度を上げていくことが課題と言える。  ③ 各分掌において、ウェブサイトの自主的な更新・情報発信には課題が残った。  ④ 8月に説明会・体験授業を実施。小学生と保護者あわせて100組の参加があった。  ⑤ 専属の非常勤教員を配置し、一時帰国時の個別見学の実施等、細やかな対応を行った。</p> <p><b>【学校経営・組織体制】</b>  企画調整会議を軸として、「組織的な学校運営体制」の再構築に取り組めた。<b>【B】</b></p>
---	--

<p>① 企画調整会議と分掌部会との双方向性を維持する。  ア 企画調整会議と分掌部会との双方向性を継続することによって、全教職員の情報共有や経営参画を進める。  イ 学校経営上の課題について横断的に検討し、必要に応じて分掌等に働きかけ、教育活動の改善や新規事業の提案等を行う。</p> <p>② 教科主任会及び教科会の充実とともに教科間の連携を図る。  ア 教科ごとの学力分析・課題の把握・優れた実践の共有を進め、学習指導へと反映させる。  イ 教科として組織的な補習・講習の企画・立案・実施を進める。  ウ 教科間の連携を一層強化し、バランスのとれた指導体制を整える。</p> <p>③ 学校経営計画に基づき、各分掌が組織目標の設定、中間総括、年度末総括を実施する。</p> <p>④ 服務事故ゼロを達成し、生徒・保護者の信頼を確立させる。特に体罰や不適切な指導を絶対に生じさせない。</p> <p>⑤ 業務の見直しを行い、業務縮減を進める。</p> <p>⑥ 経営企画室による教育活動の支援を進める。  ア 来校者等への丁寧な接遇を行う。  イ 計画的・効率的に予算執行する。  ウ 施設設備の定期的な安全点検・安全管理及び迅速な修繕を徹底する。  エ 行政職員から見た教育活動等への提言を行う。</p>	<p>① 企画調整会議の内容伝達は、概ね円滑であった。  ア 全教職員による情報共有が円滑に行えるようになった。  イ 課題について横断的に検討するようになったが、改善に結びつくまでにはまだ課題がある。</p> <p>② 教科主任会及び教科会を充実させることができた。  ア 教科ごとの分析等は共有できているが、優れた実践の共有には課題がある。  イ 教科としての組織的な補習等は実践できている。  ウ 課題の提出時期や課題量について、教科間の連携改善が急務である。</p> <p>③ 予定通りに実施した。</p> <p>④ 体罰などは生じさせなかった。</p> <p>⑤ 業務量の増大からくる勤務時間の長さに課題がある。業務の見直しが一層必要である。</p> <p>⑥ 経営企画室について、積極的に教育活動を支援した。  ア 実施することができた。  イ 実施することができた。  ウ 教員と連携し、日常の点検や施設管理について、迅速な対応ができた。  エ 行政職員と教職員との連携が密になり、情報の共有ができている。</p>
<p>2 重点目標への取組</p>	<p>自己評価</p>
<p><b>【学習指導】</b>  <b>【目標】</b> 生徒と教員とで質の高い授業づくり  <b>【方策】</b>  ① 教員間で年間を通して相互に授業を参観し合い、良さを共有する。  ② 同一科目において、授業内容・授業進度をそろえ、定期考査問題の完全共通化を継続する。  ③ すべての教科・科目において、教科書レベルの授業内容を3年生11月までに終了させることを継続する。  ④ 全教員で「理数探究基礎」に取り組む。  ⑤ 11月に探究活動に関する校内研修会を実施する。</p> <p><b>【数値目標】</b>  学習指導に対する生徒肯定割合85%以上（前年度83%）  理数探究（R6）の履修者数20名（前年度15名）、理数探究発展（R6）の履修者数15名</p>	<p><b>【学習指導】</b>  授業評価アンケートの結果をフィードバックできた。定期考査問題の完全共通化も継続した。<b>【B】</b>  ① 個々の教員の取組に加えて、一部では教科としての授業研究や改善を深めていくことが実践された。  ② 定期考査問題の共通化は100%の実施率であった。  ③ 3年生については、すべての授業において教科書レベルの内容を11月までに終了させた。  ④ 作業部会を中心に進行計画を立て、全教員で取り組むことができた。  ⑤ 11月の校内研修は、理数探究基礎について、指導の共有化を図ることができた。</p> <p><b>【数値目標】</b>  学習指導に対する生徒肯定割合は、80%とやや減少した。  理数探究の履修者数15名、理数探究Ⅱの履修者数3名</p>

**【生活指導・健康づくり】**

**【目標】** 全教職員が一致して生徒と向き合う指導

**【方策】**

- ① 学年集会や全校集会を活用し、生徒の意識や自覚を高めるための全教職員による一致した指導の実践（リーダーとしてふさわしい身だしなみ、時間・私物・貴重品管理・SNSの適切な利用に重点）
- ② 必要に応じてケース会議を開催し、心のケア等について迅速に情報共有するとともに、的確に対応する。
- ③ 海外・国内からの多数の来校者の視点に立って、年間を通して日常的に校内点検を徹底し、環境整備を行う。

**【進路指導】**

**【目標】** 生徒の希望進路の実現

**【方策】**

- ① 根拠となるデータに基づいた生徒への励ましの指導を実施する。
- ② 生徒の高い志を堅持させ、第一志望を貫けるように支援する。

**【数値目標】**（ ）内は前年度の人数や達成率

- ① 難関4国立大学及び国公立医学部医学科の現役合格者 80人以上（61人）
- ② 難関3私立大学の現役合格者 280人以上（250人）
- ③ 国公立大学の現役合格者 120人以上（104人）
- ④ 大学入学共通テスト5教科の総合得点率80%以上の人数 160人以上（135人）
- ⑤ 大学現役進学率 70%程度を維持（69%）

**【特別活動】**

**【目標】** 文武両道を追求する生徒の育成

**【方策】**

- ① 部活動加入を奨励する。
- ② 各行事を通して、生徒会や実行委員会生徒の育成を図る。
- ③ 全校集会等における生徒会役員及び委員会からの連絡場面を設定する。
- ④ 行事準備時間と部活動時間との割り振りを適切に行い、効果的・効率的な運営を行う。

**【数値目標】**

学校行事に対する生徒肯定割合90%以上（前年度89%）

**【生活指導・健康づくり】**

時間管理や身だしなみ等について学校全体での課題意識は共有できた。教員による指導と、適切な声掛けによる生徒の自律的な生活態度の育成とのバランスが今後の大きな課題である。**【B】**

- ① 生徒への投げかけについては、教員間の目線合わせの必要性がある。
- ② 生活指導部会の中で必要な情報共有をして対応した。また、本校スクールカウンセラーや都のSSCとの連携も円滑に実施した。
- ③ 教育環境の整備についてのアンケートでは、肯定的評価が生徒、保護者、教職員いずれも80%を超えた。今後も環境整備に対する意識を一層高める取組を継続させる。

**【進路指導】**

難関国立4大学及び国公立医学部医学科の現役受験者数は263名と高い志望状況であった。また、東京大学の合格者数は全国の公立高校の中で11年連続1位の実績をあげることができた。**【A】**

**【数値目標】**

- ① 難関4国立大学（東京・東工・一橋・京都）及び国公立医学部医学科の現役合格者96人（達成率120%）
- ② 難関3私立大学（慶応・早稲田・上智）の現役合格者343人（達成率123%）
- ③ 国公立大学の現役合格者142人（達成率118%）
- ④ 大学入学共通テスト5教科の総合得点率80%以上の人数180人（達成率113%）
- ⑤ 大学現役進学率は68.8%（達成率98%）

**【特別活動】**

新型コロナが5類へ移行したことで、学校行事、部活動、生徒会活動、委員会活動などは日常的に活動できた。**【A】**

- ① 部活動加入を奨励することができた。
- ② 実行委員会生徒が主体的に活動し、体育大会、合唱大会、星陵祭を成功させた。
- ③ 生徒主体の活動を実施できた。
- ④ コロナにより途切れた伝統を単純に復活させるだけでなく、より良い形へと変えていくことを目指し、教員と生徒が協力して運営を行った。

**【数値目標】**

学校行事への生徒肯定割合89%とほぼ達成

<p><b>【募集・広報活動】</b>  <b>【目標】</b> 本校を理解した生徒の獲得  <b>【方策】</b>  ① 生徒会外務委員会との協力体制を継続し、生徒の視点からのPR活動を行う。  ② 帰国生・都外生を対象としたオンライン説明会を継続実施する。  ③ 学校ウェブサイト本校保護者及び本校を目指す中学生が欲する情報を掲載できるよう改善を図る。</p> <p><b>【学校経営・組織体制】</b>  <b>【目標】</b> PDCAマネジメントサイクルの実働化  <b>【方策】</b>  ① 分掌部会における報告、資料回覧、TAIMS送信等により、企画調整会議の内容を確実に伝える。  ② 意見聴取事項については、分掌主任が部会での検討結果を企画調整会議で報告する。  ③ 学校経営計画及び分掌組織目標を踏まえ、教職員個々の自己申告における目標設定を行う。  ④ 全分掌が、学校経営計画に基づく年間組織目標を設定し、中間総括及び年度末総括を実施するとともに、学校運営連絡協議会・学校ウェブサイトで公開する。</p>	<p><b>【募集・広報活動】</b>  夏季学校見学会の総参加者数は1407組2813人。海外在住生対象オンライン懇談会参加者18人。学校説明会の総参加者数211組422名。小学生対象学校見学会及び5教科体験授業実施100組200人。<b>【A】</b>  ① 上記の説明会等、いずれも本校生徒会及び外務委員会を中心とした多くの生徒たちの協力で運営した。在校生との交流の中で本校の教育理念や教育活動をPRできた。  ② 海外在住の中学生を対象にオンライン説明会及び懇談会を実施した。また、学校ウェブサイト相談窓口を開設し、メールで対応した。さらに、塾主催の帰国生対象相談会へ参加した。  ③ 新ウェブサイトを構築し、欲しい情報が容易に手に入るようにした。</p> <p><b>【学校経営・組織体制】</b>  学校経営計画に基づく各分掌のマネジメントサイクルが主任を中心に整備できた。<b>【B】</b>  ① 企画調整会議の内容伝達は、概ね円滑であった。  ② 報告事項は毎回適切に行われた。  ③ 引き続き、教職員の目標設定を検証可能な、より具体的なものへとしていくことが必要である。  ④ 年度総括は最終職員会議にて全教員が情報共有し、次年度への引継ぎとともに課題を明確にすることができた。</p>
<p>3 次年度以降の課題</p>	<p>対応策</p>
<p><b>【教科マネジメントの確立】</b>  ① 「集団での学び」と「個での学び」の継続実施。「生徒間の対話のある授業実践割合」と「大学入試問題への対応力」を高める。  ② 3学年特別時間割の更なる充実を図る。  ③ 個々の生徒の学習状況をこまめに把握する。</p> <p><b>【生徒の高い進路希望の実現】</b>  ① 地歴公民及び理科の学習計画を生徒に示し、3学年夏季の模擬試験における5教科の成績向上を図る。</p>	<p>① 「生徒間の対話による学び」をすべての授業で実施し、自らの学びをより深めるよう促す授業を展開する。授業・土曜講習・夏期講習において大学入試を意識させ、必要な問題解答力を高める。  ② 講座の設定・内容を進路指導部・教務部・学年とで組織的に行い、3学年全体の大学入試に向けた機運の醸成と実効性を高める。  ③ 教育用ダッシュボードを稼働させ、個々の生徒の学習状況等を総合的にとらえ、個別最適な指導へとつなげる。</p> <p>① 前年度の取組状況や模擬試験結果を踏まえ、2学年11月以降の具体的な働きかけとその実施について、発展・継続させる。3学年の夏</p>

<p>② 医学部医学科志望者の増加を踏まえ、計画的な学力向上・面接対応力向上を組織的に継続する。</p> <p><b>【広報・募集活動の活性化と入試倍率の向上】</b></p> <p>① 少子化や男女枠撤廃、私立の授業料無償化の影響に伴う募集対策は今後の課題。これまでの広報・募集活動に加え、海外・他県・国立・私立からの応募者増を成し遂げ、応募倍率の向上を果たす。</p> <p><b>【新学習指導要領への対応】</b></p> <p>① 全科目において、精度の高い観点別評価を実施・改善していく。</p> <p>② 主体的・対話的で深い学びの実現へ向け、一人1台端末を活用した学習指導について継続発展させる。</p> <p>③ 1年の「理数探究基礎」について、次年度に向け改善を図る。</p> <p><b>【コロナ禍からの脱却】</b></p> <p>① すべての教育活動において、内容を精査し、より実効性のあるものに進化させる。</p>	<p>季の模擬試験における5教科の成績向上については、5教科で数値目標と対応策を示し、全教員に周知する。</p> <p>② 「医学科志望者ガイダンス」や「面接指導」を一層充実させる。</p> <p>① 海外帰国子女に対する民間主催の学校説明会への参加や学校ウェブサイトにおける相談を継続し、応募者増につなげる。また、生徒会との協力運営により、本校の魅力の情報発信に努める。次年度は新ホームページが稼働することから、更新頻度の向上と内容の充実を目指す。</p> <p>① 今年度の観点別評価による評価を検証し、より正確な評価になるよう、引き続き改善をはかる。</p> <p>② BYODによる指導実践を進め、共有する。特に一人1台端末を持った生徒に対する学習指導内容を検討し、共有を図る。</p> <p>③ 作業部会を中心に、「理数探究基礎」の内容及び年間計画の見直しを図る。</p> <p>① 生徒の負担感や教職員のワークライフバランスとのバランスをとり、三大行事、校外行事、部活動等の内容の見直しを実施する。</p>
--	---